

澤染工場

〈事業計画名〉乾燥機の導入による、「注染」の短納期・品質向上への取り組み事業



アイロナーの導入で大幅な効率化が実現 顧客ニーズを満たす品質・短納期化が可能に

事業の背景

短納期とシワ改善の顧客要望が増大

当事業所で行っている「注染(ちゅうせん)」は、基本的に型紙作成から染色・乾燥・納品まで5日程度が必要で、中でも乾燥工程・ロール工程がボトルネックとなっていた。

乾燥工程は基本的に自然乾燥となるため、天候・気温に影響されやすく、1日程度を要する。また、長い布を高所から吊るして干すという作業であり、常に危険を伴う作業だった。

ロール工程は乾燥した布のシワ取り工程で、横シワは解消できるが縦シワに対応できない状態だった。

近年では、短納期を要望される顧客が多いため、設備導入で各工程を改善し、より短納期・高品質な生産体制の構築を目指した。



事業の成果

全国的にも少ない、乾燥機による超短納期化

本事業においてシーツローラー乾燥機(アイロナー)を導入したところ、丸1日掛かっていた乾燥時間を15分に短縮できた事に加え、乾燥機を利用する事でシワが伸び、ロール工程が不要になったため、通常の生産効率が1.5倍に向上。また、乾燥工程の高所作業も無くなった為、従業員の安全も確保できるようになった。

特に時間短縮という点では想定以上の成果があり、偶発的ではあったが、ある製品の納品後に型紙データの誤りが判明し、型紙の再作成から染色・乾燥・裁断・再納品までを当日中に実行できたため、全国的にも珍しい超短納期にも対応が可能となったと言える。



澤染工場の概要

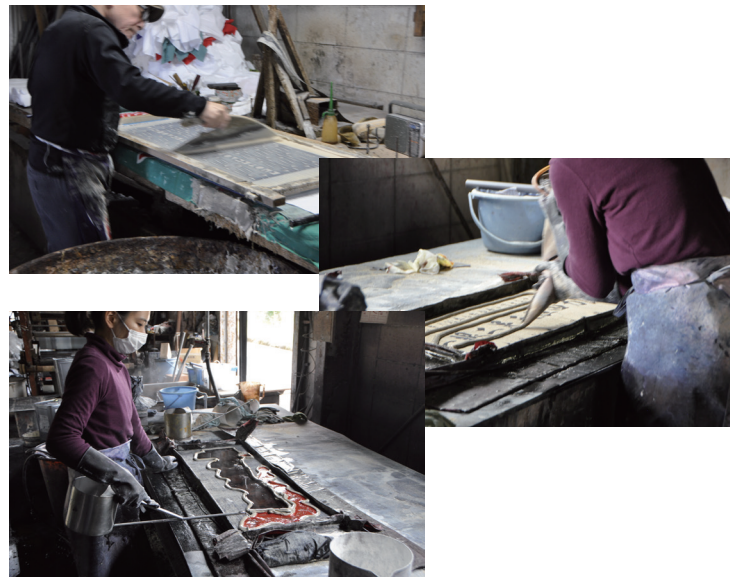
型紙作成から裁断まで一貫生産が可能

当事業所は、平成21年に大阪から現在地に移転し、「注染」を専門とする染色工場として創業。主に手ぬぐいの染色・生産を行っている。

当事業所は初代となるが、工場自体の歴史で見ると4代目にあたり、100年近い経験とノウハウを有している。

当社の強みは、型紙のデザイン・製作から染色・乾燥・裁断まで「外部委託せずに内部完結」できる一貫性にある。外部委託しないことに加えて設備導入により、短納期・低コストでの対応が可能となっている。

また、基本的なサイズである小幅(約40cm)に加え、1m幅の注染台を所有している為、風呂敷や神社幕など大型製品にも対応が可能である。



注染(ちゅうせん)とは…

布に模様をつける日本の染色技法の一つ。主に手拭に使われる。布の染めない部分に型紙で防染糊を付け、乾燥後に染める部分を囲うように土手を作り、その土手の内側に染料を注いで布を染める。布を重ねることで同時に複数枚染めることができ、一度に多色を使って染めることもできる。染料は布の下側に抜ける(空気圧で吸い出す)ため、布の芯まで染まり、裏表なく柄が鮮やかで色褪せしにくいことが特徴とされる。

大阪府堺市で江戸時代初期に確立し、手拭や浴衣などの伝統産業(伝統工芸)で現在も広く使われているが、職人の高齢化と後継者不足で年々事業者が減少しつつある。

今後の展望

若いアーティストや学生とのコラボでオリジナル作品の製作・販売サポート

以前、ある学校からの依頼で、学生の起こしたデザイン・型紙を染めて製品化し、ECサイトなどを使ってオリジナル製品の販売・流通を「個人」ではなく「法人」として管理体験する、というプロジェクトに染色の外部委託先として参加した事がある。

学生が考えるデザインはセオリーから外れたものもあったが、新しい発見や発想も多く、デザインを行う作り手・クリエイターとして非常に良い刺激を受けることが出来た。

「伝統継承」という使命感ではないが、表現手段の1つとして注染を知ってもらい、もっと色々なアーティストやデザイナー、学生など若い人達のオリジナル作品製作や製品化・販売サポート等を行うコラボなどの機会を増やしていきたいと考えている。

現状、製品化は予定していないが、身内・関係者用に配布するため、当事業所名と干支をモチーフにしたオリジナルデザインの手ぬぐいを毎年製作している。

いずれは自社オリジナル製品製作も検討しているが、顧客製品とのパッキングなどの問題もあり、良い方法・手段を模索中である。



澤染工場

業種分類 繊維工業

事業内容 手ぬぐい・浴衣・風呂敷・神社幕などの染色・製造

代表者名 代表 澤 隆政

所在地 奈良県生駒郡斑鳩町神南 3-3-5

連絡先 TEL:0745-74-6370/FAX:0745-74-6371

ホームページ なし

※Instagram : @sawadyeworks

E-MAIL sawasome@salsa.ocn.ne.jp